

バスケットボール戦評記入用紙

大会 平成30年度 関東高等学校バスケットボール大会 埼玉県予選会
日時 平成 30 年 5 月 19 日 土 曜日 第 1 試合 F コート 時刻 10:00
場所 越谷市立総合体育館 記入者名 中村 敬子

A チーム	得点		得点	B チーム
		⎛ 18 — 15 14 — 18 9 — 14 20 — 21 ⎞		
埼玉栄 高校	61		68	昌平 高校

<戦 評>

埼玉栄の「力強さ」と、昌平の「うまさ」の対決。どちらに軍配が上がるか興味深い準決勝となった。

- 1P 両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり埼玉栄は#11、#6の3p、昌平は#10のハイポストからのジャンプシュートで得点。お互い1歩も譲らず1P中盤まで9-10と白熱した展開となる。そこから3分お互い厳しいディフェンスに対して、思うようなシュートが打てずノーゴール。昌平はポストマンに対して素早くダブルチームを仕掛けプレッシャーをかけるが、ファウルがかさみ4ファウルとなってしまう。さらに埼玉栄が、1P終わりにオールコートでプレスを仕掛け、連続してボール奪取に成功。18-15埼玉栄リードで終了。
- 2P 埼玉栄は、オフェンスが苦しくなると#11のポストアッププレーで得点を重ねていく。一方昌平は、#9のジャンプシュートが確率よく決まり互角の展開。29-25 埼玉栄4点リードのところから、昌平はディフェンスプレッシャーを強めインターセプトから速攻。その後#9の3p、#8のハイポストからジャンプシュートと連続得点で逆転。しかし埼玉栄も残り4秒からのスローインで#11が意地の3pを決め、32-33 昌平1点リードで後半へ。
- 3P 後半の立ち上がりは埼玉栄が#11のポストアッププレーで先制。ディフェンスでダブルチームを仕掛けなんとか流れを引き寄せようとするがファウルをとられうまくいかない。昌平もシュートの決定力を欠き2分間ノーゴール、タイムアウトをとる。その後も一進一退の攻防が続くが、残り3分 39-38 昌平1点リードの場面で、リバウンドからの速攻に#8がよく走り、さらに#7のタップシュートと華麗なプレーで連続ゴールしチームを盛り上げる。その間埼玉栄は#6の3p 1本にとどまり、47-41 昌平6点リードで最終ピリオドへ。
- 4P 埼玉栄はオールコートでダブルチームを積極的に仕掛けていく。昌平#7 足がつって退場。埼玉栄のチャンスと思いきや、昌平#9が勝負強さを発揮し連続3pを決め、55-46 この日最大9点差がついたところで埼玉栄タイムアウト。ディフェンスをさらに激しくし相手のミスを誘い55-50とするが、お互い4ファウルとなり、昌平はフリースローでつなぐ。埼玉栄はフリースローを得るものの得点に結びつけられず、残り3分で60-52。#13、#6の3pですがりつくが、昌平は落ち着いてゲームをコントロールし、最終スコア 68-61。昌平が要所で集中力を発揮して埼玉栄を下し、初優勝に向けて決勝戦にコマを進めた。